

映画上映会「60万回のトライ」& 朴思柔・朴敦史両監督トークセッション

猪瀬 浩平

2018年7月13日に、教養教育センター附属研究所が、「内なる国際化」に対応した人材の育成プロジェクト運営委員会と共催で、大阪朝鮮高校ラグビー部のドキュメンタリー映画『60万回のトライ』の上映会を白金校舎で開催した。本学の学生、教職員、一般市民の方が多数参加すると共に、社会学部の「特別支援教育学総論A」等授業からの参加もあった。

日本社会における民族教育の場であり、近年は高校無償化からの除外や、地方自治体からの補助金の凍結といった措置をうける朝鮮学校について、ラグビー部の生徒たちの姿から迫った本作品は、民族教育の中で生徒たちが自らのルーツを確かめていく様子を活き活きと描くと共に、旧植民地をルーツにする人びととの共生に課題を抱える日本社会において、スポーツが一定の可能性を持つことも描いている。

上映後に行った朴思柔・朴敦史両監督とのトークセッションでは、参加者も交えながら、多文化共生の課題や、スポーツを通じた交流の可能性について議論を行った。上映会に参加した学生からは、日本のメディアで表象される朝鮮民主主義人民共和国についての表象と、本作品において朝鮮高校の修学旅行の場面で描かれた朝鮮民主主義人民共和国に生きる人びとの姿に大きな違いがある事が語られ、メディアの表象を相対化する気づきがあったとの発言もなされた。

映画という方法で、ラグビーというスポーツをとりあげて朝鮮学校の今を描いた本作品は、多様な専門分野の教育を通じて現代の問題に取り組む人物を育てる使命をもった教養教育センターにとって、学際的な連携を深めていくと共に、学生に対する教育方法を改善して行く上でも、重要な意味を持っているように考えられる。今回、教養教育センター附属研究所の企画として、この上映会が開催できたことに関係各位に対して厚く御礼を申し上げる次第である。

研究
所概
要

月
例
研
究
報
告

ラン
ゲ
ー
ジ
ラ
ウ
ン
ジ
活
動
報
告

研
究
プ
ロ
ジ
ェ
ク
ト

公
開
講
座
報
告

公
開
講
演
会

研
究
業
績



「60万回のトライ」から考える多文化共生 — 上映会と監督との対話 —

映画上映会 「60万回のトライ」

& 朴思柔・朴敦史両監督トークセッション



日時： 2018年7月13日（金） 16：45～19：30

◆16：45～映画上映会『60万回のトライ』

◆18：50～朴思柔・朴敦史両監督によるトークセッション

進行：猪瀬浩平（明治学院大学教養教育センター教授）

場所： 明治学院大学 白金校舎 3号館 3101教室

※ 入場無料（学外の方もご参加いただけます）

- ◆ 主催：明治学院大学教養教育センター附属研究所
- ◆ 共催：「内なる国際化」に対応した人材の育成プロジェクト
- ◆ 後援：東京都港区

「内なる国際化」サイト→



お問い合わせ先：明治学院大学教養教育センター kkc@gen.meijigakuin.ac.jp

「K-POPもJ-POPも朝鮮の大衆歌謡も好き」 朝鮮半島の南と北、日本——3つの社会をつなぐ大切な存在 在日朝鮮人高校生たちの“いま”を映し出す

大阪生まれ、大阪育ち。見た目は日本人と変わらない。そんな彼らが通うのは大阪朝高（オーサカチョーコー）。高校ラグビーの激戦地で強豪校の仲間入りを果たし、日本一を目指して闘っている彼らの胸には、いったいどんな想いがあるのか？ J-POPも、K-POPも、朝鮮の大衆歌謡もこよなく愛する、いまどきの彼らの素顔を描いた青春ドキュメンタリー映画、ここに完成！

彼らが目指す「ノーサイド」

ノーサイド（No Side）。ラグビーで試合が終了する時に使う言葉だが、この言葉には国籍や民族を越えてお互いを讃え合うという精神が込められている。ヘイトスピーチや高校授業料無償化の問題などに注目が集まるなか、ひたむきにまっすぐ生きる彼らにとっての「ノーサイド」とは何なのか？

ソウル出身の女性監督が 大阪朝高ラグビー部を3年間密着取材！ 音楽は「あまちゃん」の大友良英、 ナレーションは根岸季衣！

本作はソウル出身の朴思柔（ぱく さゆ）監督のデビュー作となる。在日朝鮮人3世の朴敦史（ぱく とんざ）が共同監督を務めた。音楽は、前衛的かつ多彩な音楽活動で、海外でも評価の高い大友良英。昨年、NHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』の音楽を担当し脚光を浴びた。ナレーションは、朗読劇でも定評のある俳優の根岸季衣が務め、脇を固めている。



大阪朝鮮高級学校（大阪朝高）

1952年創立。所在地は東大阪市。大阪一円、広くは和歌山、奈良、三重から在日朝鮮人の生徒約350名が通う。ラグビー部をはじめ、全国区のスポーツ強豪校として知られている。しかし、ラグビー部が公式戦に参加することができるようになったのは1991年。創部から20年近くが経っていた。全国大会初出場は2003年。以来、着実に力をつけ、ベスト4を二度、ベスト8を一度経験している。

朝鮮学校の歴史は、日本の敗戦直後、日本に残ることになった朝鮮人が民族の言葉を学ぶため、「国語講習所」をつくったことに始まる。現在、全国に64校。近年、高校授業料無償化からの排除、自治体の補助金停止など、学校をとりまく日本社会の状況が生徒たちを脅かしている。



www.komapress.net

大阪朝鮮高級学校ラグビー部を描いたドキュメンタリー映画『60万回のトライ』。教養教育センター附属研究所は、「内なる国際化」に対応した人材の育成プロジェクトと共催で、この映画の上映会と朴思柔・朴敦史両監督を招いたトークセッションを開催します。朝鮮学校の《今》を学ぶと共に、多文化共生の課題やスポーツを通じた交流の可能性について議論を行います。

